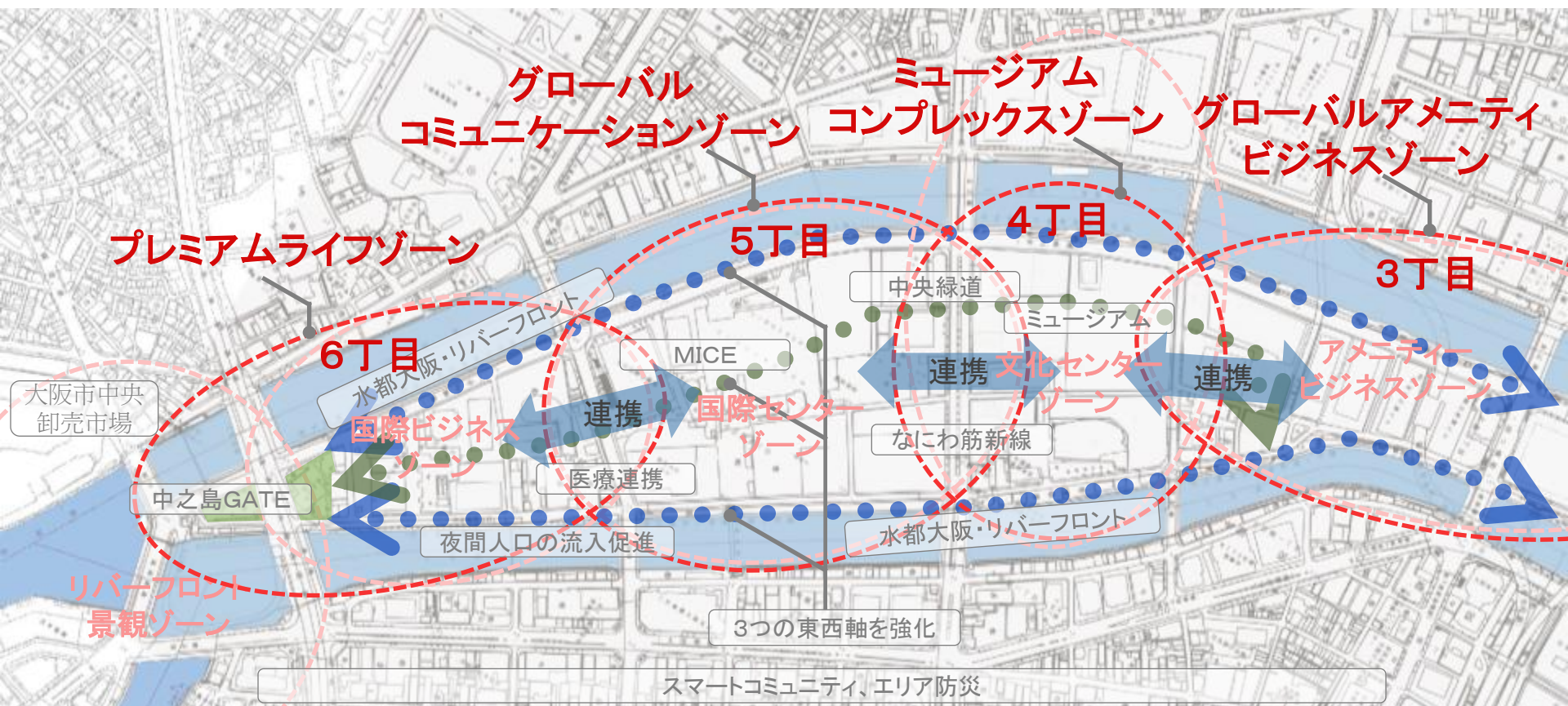


中之島3～6丁目のまちづくりコンセプト

- ・3丁目 : 「グローバルアメニティビジネスゾーン」
- ・4丁目 : 「ミュージアムコンプレックスゾーン」
- ・5丁目 : 「グローバルコミュニケーションゾーン」
- ・6丁目 : 「プレミアムライフゾーン」



広域での連携とともに、中之島地区内で多様な機能の集積をはかり、機能間での連携シナジーで、地区一体となって「創発する中之島」を目指す。



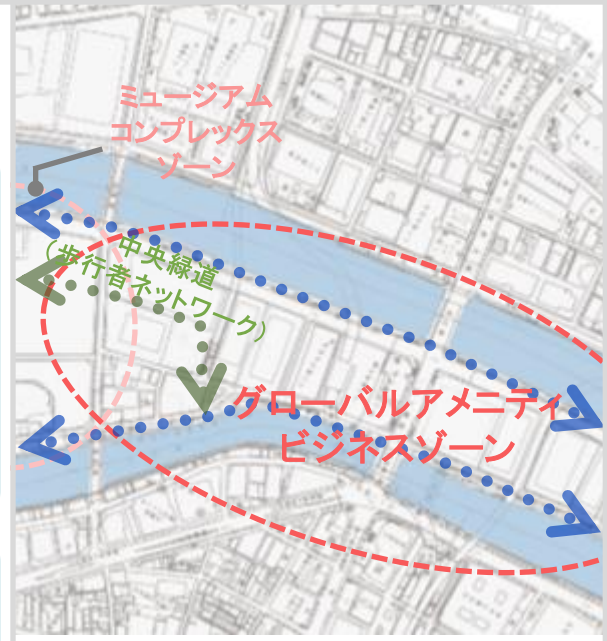
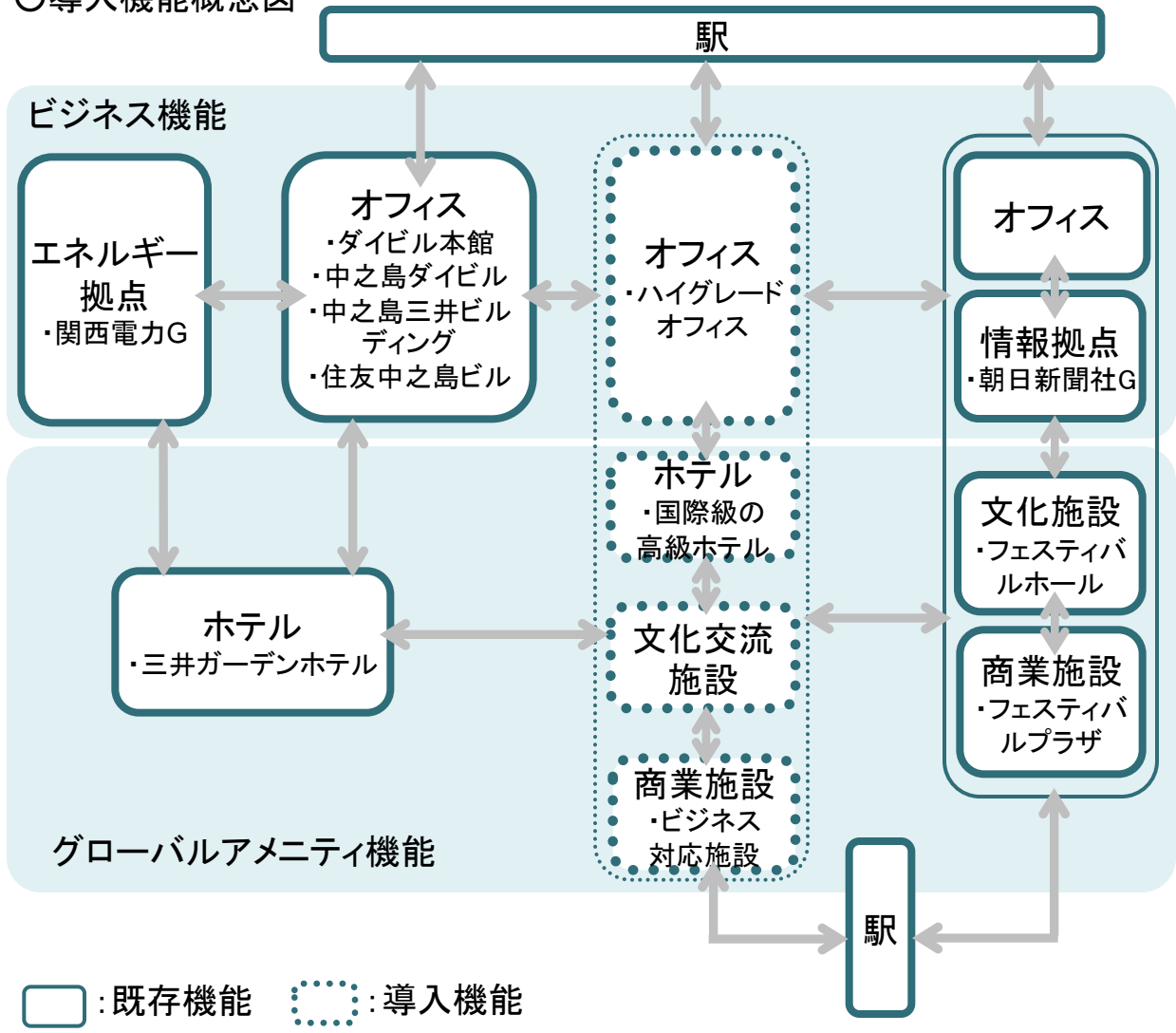
: 本構想(案)でのまちづくりコンセプト
 : 大阪 中之島の都市ビジョン(2005年策定)の都市機能ゾーニング

中之島3丁目のまちづくり案

グローバルアメニティビジネスゾーン

日本有数のビジネス拠点かつホテル・文化・商業機能が集積するグローバルアメニティビジネスゾーンを形成

○導入機能概念図



- ・ハイグレードオフィスを新設しオフィス機能の拡充により、日本有数のビジネス拠点ゾーンを目指す
- ・国際級の高級ホテル、文化交流施設の新設とともにフェスティバルホール等との連携をはかり観光集客機能を強化
- ・商業機能の強化により、ビジネス機能の補完とともに、商業集客による人々の賑わいを創出
- ・河川水利用の促進により、環境配慮の取組における先導的エリアを目指す

中之島4丁目に必要な機能

(中之島4丁目コンセプトと都市魅力戦略会議との関係)

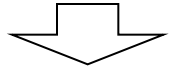
中之島4丁目にある未開発土地はほとんどが大阪市の土地であることから、大阪府市(都市魅力戦略会議)方針として進めようとしている「中之島ミュージアムアイランド構想」を踏まえて4丁目開発のコンセプトを考慮する必要がある。

よって、中之島4丁目のコンセプトは「ミュージアムコンプレックスゾーン」とする。

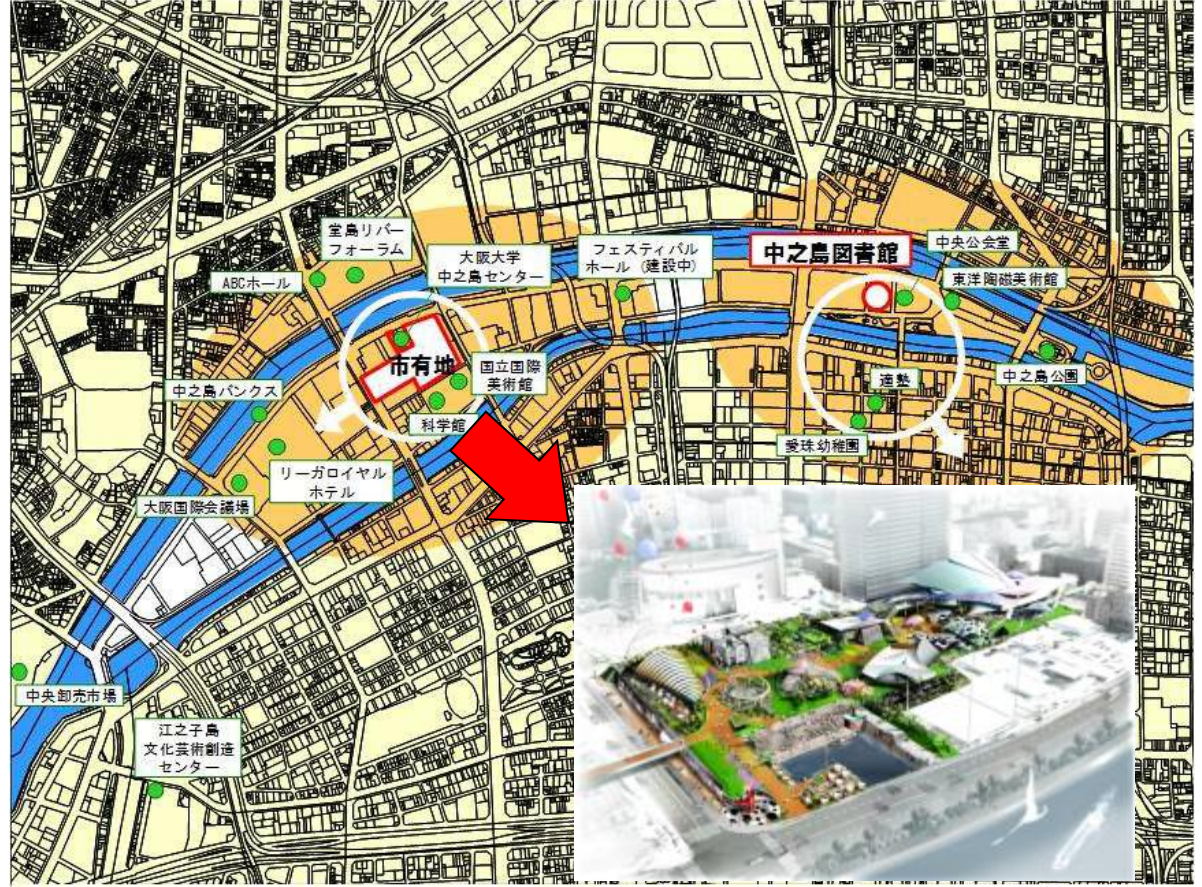
中之島ミュージアムアイランド構想

中之島4丁目を構想推進のトリガーに

- ・市有地において新たな美術館やコンサートホールの整備を検討
- ・国立国際美術館や市立科学館とミュージアムコンプレックスを形成
- ・世界的な文化集客ゾーンに向けて官民一体でブランド化を推進



・平成24年度内を目途に方向性を提示

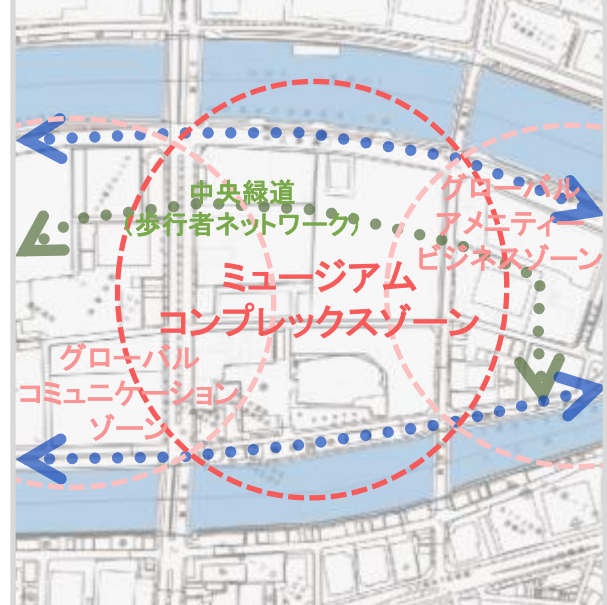
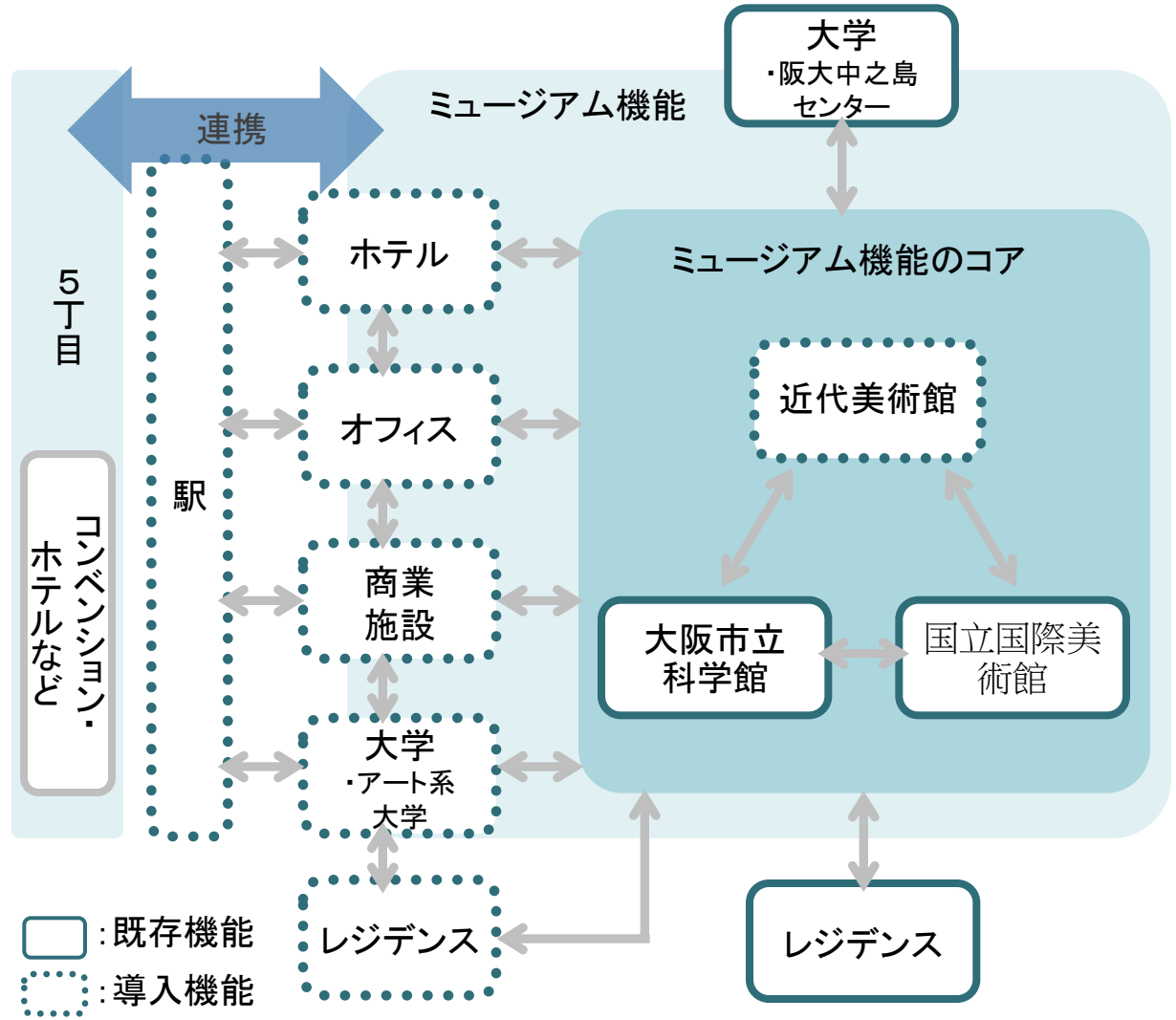


中之島4丁目のまちづくり案

ミュージアムコンプレックスゾーン

ミュージアム機能を核とし、水都大阪を代表する広域集客拠点となるミュージアムコンプレックスゾーンを形成

○導入機能概念図



- ・大阪府市方針(都市魅力戦略会議)に基づく近代美術館の建設
- ・アート・文化機能を下支えする其他施設を導入
- ・アート系の大学を誘致しミュージアム機能を補完し、学生による賑わいを創出
- ・中央緑道を確保し、オープンスペースを設け3丁目「北西広場」とデッキで接続
- ・なにわ筋線整備により、南北のアクセス性を高めるとともに、広域アクセス拠点としての位置づけを付与
- ・なにわ筋線整備に伴い、駅前の顔となる施設を整備

中之島5丁目に必要な機能

(中之島全域における5丁目の位置づけの考察)

- ・グローバルに人々を魅了し惹きつけている世界都市の都心部形成においては、業務機能の集積のみならず業務中心地と近接し、様々な機能がコンパクトに複合したアメニティの高い地域が存在している。
(例:シンガポール・オーチャードロード周辺エリアやニューヨークのアップパーウエストエリアなど)
- ・大阪市内においては、そのポテンシャルを有する地域筆頭は特有の水辺空間と蓄積された既存機能を有し、シンボルアイランドとして期待される中之島地域である。
- ・その中でも5丁目は、街区として最も面的な大きさ・拡がりを有する一方で、低未利用地(公有地含む)が多く開発余地を有しており、複合都市としてのポテンシャルが高い。

(地域のブランド化)

- ・地域ポテンシャルを活かすべく、交流人口・定住人口を増加させる多機能・多用途を集積させる。
- ・グローバル＝国際基準と捉え、様々な機能で国際的に誇れる水準を目指す。
- ・「アメニティの高さ」×「グローバル(国際基準)」×
「コンパクトコミュニティ(多機能の集積)化」により地域ブランドを確立。

(交流人口の増加)

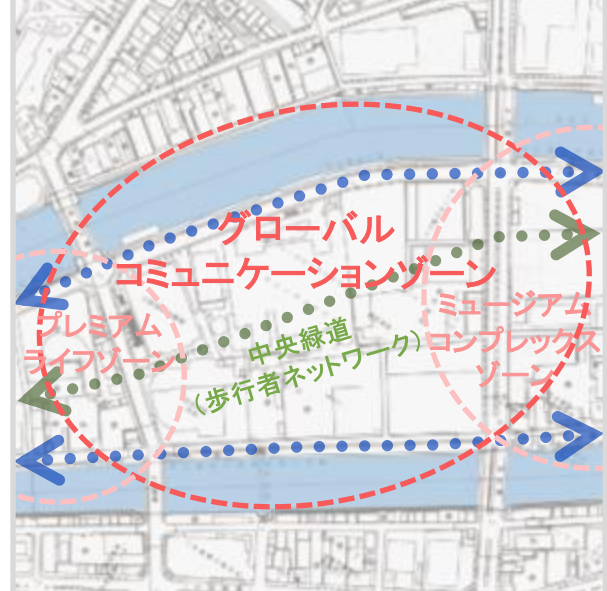
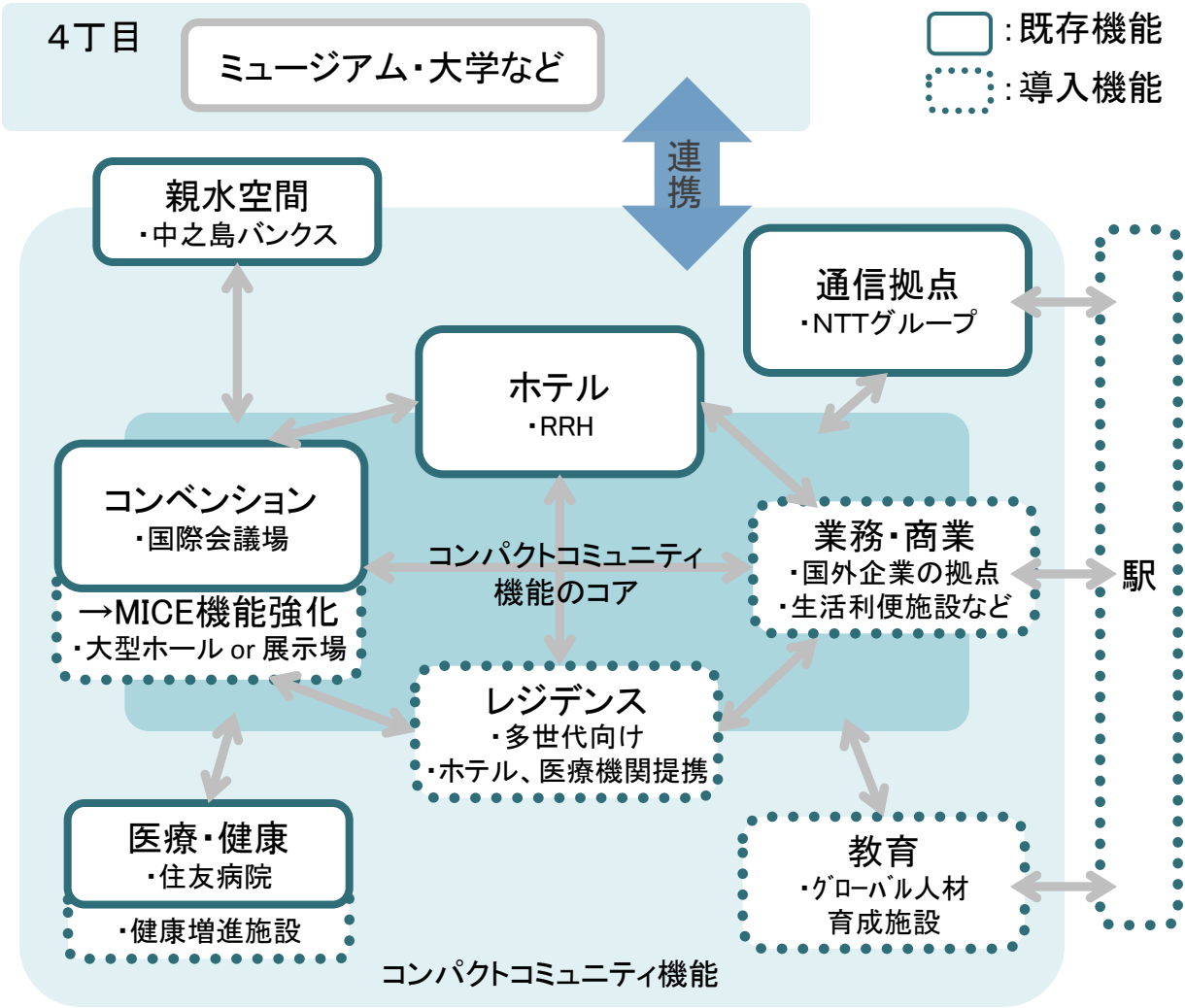
- ・国際会議場のMICE機能が既にあるが、ホール・展示機能が弱く、国際会議の開催実績が国内他都市に比べて低い
→MICE機能を強化させることで、交流人口をより増加させる

中之島5丁目のまちづくり案

グローバルコミュニケーションゾーン

多世代が交流し国際的に誇れる地域、ホテル・商業・業務・住宅などの様々な機能が集積したグローバルコミュニケーションゾーンを形成

○導入機能概念図



- ・ホテル、コンベンション機能の活用、補完により交流人口を増加させ街の賑わいを創出
- ・4丁目、親水空間との連携・活用によりMICEにおけるユニークベニューを創出
- ・商業空間で多種多様な交流を創発するハブ機能を創出
- ・大阪市有地を活用しMICE機能や教育機能を強化 (例: 5,000席ホール、20,000㎡展示場)
- ・魅力的な都心居住環境を整備し、定住人口増、多世代の集う地区を形成
- ・医療施設、ホテル、住宅の相互連携によるトータルライフサポート機能の強化
- ・住環境の整備に合わせてグローバルな教育を推進する機能を誘導